

②「エコロジカルな生協運動」への挑戦

庭野陽子

人社会自然の調和ある社会をめざして

——「コープ・エコロジィ・プログラム

(素案)」の発表とコープかながわの
長期・中期計画づくり

ユーコープ事業連合は、今年八月に、「コープ・エコロジィ・プログラム(素案)」を傘下生協の組合員に発表し、「『エコロジカルなくらし』の創造と『エコロジカルな社会・経済のしくみ』づくりをめざすコープの行動計画」(「エコロジィ・プログラムの目的」より)についての議論を開始しました。

この「エコロジィ・プログラム(素案)」は一九八二年から始まった、コープかながわの長期・中期計画づくりに端を発しています。

コープかながわの長期計画づくりは、山岸理事長の、「十年後にコープかながわが存在し得るのか」という「胸さわぎ」から始まりました。そしてまず手はじめに、コープかながわの現在の位置、社会環境の変化、「強さ」と「弱さ」

を徹底的に分析しました。その中で、

・「よりよいものをより安く」「安心・安全」といったコープの優位性が「無添加商品」といったかたちで他スーパーでも展開されることにより、相対的に低まってしまっている。

・七十万の組合員、県内小売売上ランキングで第二位、と大きくなって、小さい時には「まあまあ」とすまされていた事が、すでに許されなくなってきたているのに、それに気づいていないのではないか。社会的責任をどう果たすのか、社会からの期待にどうこたえるか。

・「コープかながわは(主観的に)立派な活動をしているのだから、私たちが批判したり、反対するのは、その人たちが悪い」というような大変ひとりよがりな精神風土をもっているのではないか。コープのまわりのいろいろな団体や個人との結びつきが弱い(または結びつき方へタ)。

といった反省をしたわけです。

- 一 「コープ・エコロジィ・プログラム(素案)」の発表とコープかながわの長期・中期計画づくり
- 二 「エコロジィ研究会」の発足
- 三 「エコロジィ研究会」「エネルギー問題研究会」からの提案——「エコロジカルな考え方」
- 四 「牛乳パックの回収」の取り組み
- 五 電気自動車の研究

そして長期計画の施策のひとつとして、「C I計画」を導入して議論を進めました。その中で、コープかながわの新しいアイデンティティを「生活を通じて、平和な社会の実現をめざす新しい生協運動体」と整理したのです(この「平和な社会」とは1、生命を尊ぶ社会 2、自然を大切にす社会 3、調和のある社会と規定した)。そして、活動指針となる「テーマ」として、「人と人、人と社会、社会と自然、自然と人」の良いバランスを尊重し合うことにより、それぞれの本来の特性を生かしながら、本来の役割を果たすことをめざす——

「人—社会—自然」の調和ある社会を

を設定したのです。

なお、「ユーコープ事業連合」という組織ですが、今年六月に、コープかながわをはじめとする神奈川県内の五生協(浦賀生協、海員生協、菊名生協、富士フィールド生協)とコープしずおか、山梨中央市民生協の七生協がこれまでの協

力関係、事業上での委託関係を整理して、「事業連合」として発足させたものです(図-1、図-2)。

二 「エコロジー研究会」の発足

そして、これがまさに、「エコロジカル」ということなのではないか、という話になり、「エコロジー」のことをもっと深めなければ、ということと、八九年六月、コープかながわ・コープしずおか両生協の専務理事の諮問機関として「エコロジー研究会」という研究会を発足させたのです。これには、学識経験者、ジャーナリスト、組合員、また行政からもオブザーバーとして出席してもらいました。

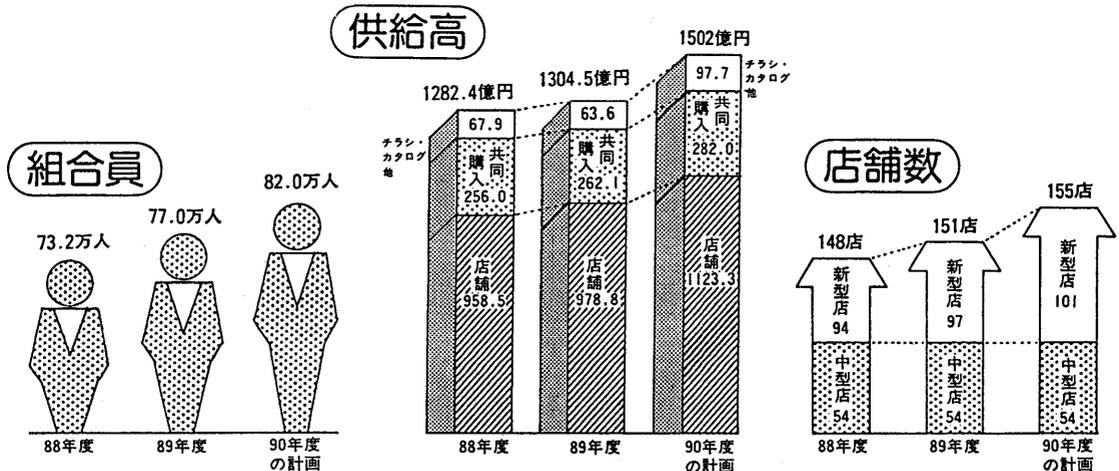
やや単純なモデルですが、「生協運動をエコロジカルに考える」時、図-3の右のような図を考えました。左が今までの生協の運動。視野が口に入れてから排せつするまで。これからの生協は右の図のように、口に入れ、排せつして、それがまた環境の生態系の中を回って、どのようにして自分のところにもどってくるか、そこを「ブラック・ボックス」にしてしまうのではなく、そこまで視野に入れて、運動するのだ、ということ。そして、そこにはどんな問題があるのか、生協としてどのようにかかわっていく

図-1 ユーコープの概要

生活協同組合連合会ユーコープ事業連合 会員生協の概要(1989年度)

<p>①浦賀生活協同組合 住 所 横浜須賀浦須賀町4-7 設立年月日 1955年5月17日 組合員数 29,302(人) 出 資 金 375(百万円) 供 給 高 4,967(百万円) 店 舗 数 7</p>	<p>②菊名生活協同組合 住 所 横浜市港北区菊名7-1-8 設立年月日 1954年7月25日 組合員数 2,366(人) 出 資 金 36(百万円) 供 給 高 459(百万円) 店 舗 数 1</p>	<p>③生活協同組合コープかながわ 住 所 横浜市港北区新横浜2-5-11 設立年月日 1946年7月6日 組合員数 769,716(人) 出 資 金 17,641(百万円) 供 給 高 130,446(百万円) 店 舗 数 150</p>	<p>④生活協同組合コープしずおか 住 所 静岡市有東3-7-1 設立年月日 1949年10月1日 組合員数 205,001(人) 出 資 金 3,064(百万円) 供 給 高 31,360(百万円) 店 舗 数 36</p>
<p>⑤全日本海員生活協同組合 住 所 横浜市中区北仲通り6-66 設立年月日 1946年7月25日 組合員数 19,607(人) 出 資 金 33(百万円) 供 給 高 2,631(百万円) 店 舗 数 12</p>	<p>⑥富士フィルム生活協同組合 住 所 南足柄市中沼210 設立年月日 1946年7月25日 組合員数 23,590(人) 出 資 金 62(百万円) 供 給 高 4,861(百万円) 店 舗 数 9</p>	<p>⑦山梨中央市民生活協同組合 住 所 甲府市落合町59-2 設立年月日 1973年7月27日 組合員数 15,656(人) 出 資 金 234(百万円) 供 給 高 3,894(百万円) 店 舗 数 1</p>	

図-2 コープかながわの数値データ



たらよいのか、というのを研究会のメンバーに研究してもらおう、というわけです。

さらに、「エコロジー研究会」の関連した研究会として、「エネルギー問題研究会」「農業研究会」も発足し、学識経験者の方にメンバーになっていただいで、それぞれの分野での研究をすすめました。こういった「外部の学識経験者の方に検討していただく研究会」という形も従来の「外部の人たちとの結び付きがヘタ」な体質を変えようと、この間かなりチャレンジしているものです。

この「エコロジー研究会」が発足する前くらいから、「オゾンホール」や「地球の温暖化」といった地球環境の問題が騒然とはじめたわけで、人々の関心もたかまり、タイムリーといえはタイムリーだったわけですが、コープとしては、「ブームだから」ということではなく、自らの存在基盤にせまるものとしてこの問題を捉えていこうとしていたわけです。

三——「エコロジー研究会」「エネルギー問題研究会」からの提案——

「エコロジカルな考え方」

今年六月、「エコロジー研究会」「エネルギー問題研究会」のそれぞれの答申がまとまり、発

表されました（「農業研究会」答申は秋に出される予定）。「エコロジー研究会」答申では、

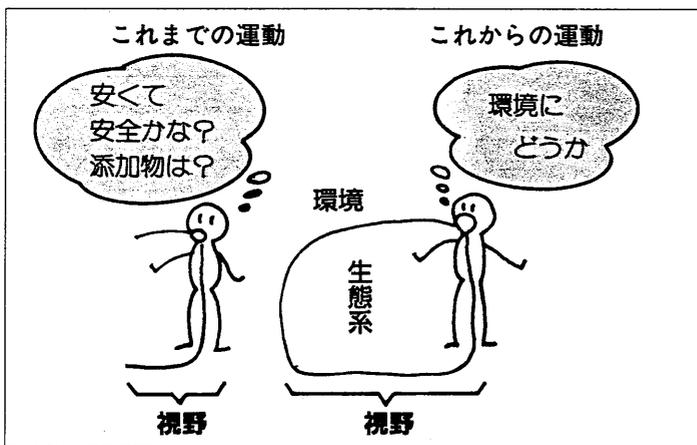
- ・コープが活動をすすめていくにあたって「エコロジカルな考え方」すなわち①対症療法的ではなく総合的に検討し対応すること ②本来生態系を持つ「自律性・安定性・循環性」を学ぶこと ③生産から廃棄まで全ての循環を視野に入れること を重視していく
- ・「エコロジカルな考え方とくらしかた」について、組合員への教育を重視する
- ・コープの活動に参加することで、「環境にやさしい生活ができる」というような総合的な商品の提供や運動の提案をしていく

といった提言がなされました。

- 「エネルギー問題研究会」からは
- ・エネルギー問題解決は①エネルギー消費の抑制 ②可能なかぎり環境負荷の小さいエネルギー資源利用の多面的な開発 の両面から検討されるべきである

・現在のエネルギー利用に伴う地球的規模の環境問題については、時を移さず、適切な措置を講じなければならない。原発推進については、大事故の可能性や放射性廃棄物の処分方法の未確立、核保有国における軍事利用との関連性といった重大な問題が解決されていない現状では、これを地球環境問題の解決策と位置付けるべき

図-3 生協運動のこれまでと、これから



ではない
 ・人々の消費行動に一定の影響をもつ組織として、コープは、自覚的にエネルギー浪費を抑制する現実的な方途を精力的に模索する必要がある。また、国内外の多くの人々と協力して社会的な問題提起を続ける必要がある。
 といった提言がなされました。

これらの答申は、コープかながわ・コープしずおか両生協の理事会に全面的に受け止められ、

これを受けて、この年の六月に発足したユーコープ事業連合が作成したのが冒頭に述べた「コープ・エコロジ・プログラム(素案)」というわけです。これは取りあえず、コープの基本的な考え方を示し、組合員の議論を経て、十月に「案」として確立していこう、というものです。

四——「牛乳パックの回収」の取り組み

消費生活協同組合の特質として、「消費者運動」という側面と「事業活動」という側面がある、ということは御存知だと思いますが、それらを効果的に、密接に結びつけていこう、ということ、冒頭に述べたように「“エコロジカルなくらし”の創造と“エコロジカルな社会・経済のしくみ”づくりをめざす」ということをプログラムの目的としています。このことのひとつの実践例として現在すすめていることに、「牛乳パックの回収」があります。回収して活用すれば純パルプ一〇〇%という良質の資源となる牛乳パックを生かそうということで、取り組みを始めます。①組合員は、牛乳を飲んだらすぐパックを洗って開いて乾かす。それを回収場所(店頭など)に持ってくる。②店の組合員委員会や牛乳パック係のメンバーが検品、箱詰め整理する。③本部の事務局が手配した回

収業者が定期的に回収する。回収した牛乳パックは静岡県の製紙会社買い取ってもらい、トレットペーパーの原料となる。

このように、ひとりひとりの組合員のやること、店の委員会のやること、職員のやること、というそれぞれの役割を明確にすることでこの運動が進んでいく、という結果になっています。

実は三年ほど前に組合員の間から「コープで牛乳パックの回収を取り組んでほしい」という要望があったのです。しかし、その頃はまだ取り組みも一部の方に限られ、コープとしてのきちんとした位置付けもなかったということであまりきませんでした。しかし、八七年に全国牛乳パックの再利用を考える連絡会が全国大会を開き、神奈川県でも神奈川県牛乳パックの再利用をすすめる連絡会が八九年二月から回収を始めるなど先進的な運動が広がっていくなかで、組合員からの牛乳パック回収への要望は強まり、一部の店の組合員委員会では、神奈川県牛乳パック連に加盟して回収を始めるところもでてきました。そういった中でコープとして、

- ・組合員の牛乳パック回収の運動をバックアップするために事業活動として回収のシステムをつくる。

ということを決意しました。事業活動としてコープは、例えばお取り引き先として製紙会社とつ

きあいがあります。この製紙会社に牛乳パックをトレットペーパーの原料として買い入れてもらうことはできないか、そしてそのトレットペーパーをコープで買い取るのどうか、といった相談もできるのです。また、お店やセンターに品物を運ぶ配送ルートも持っています。こういう機能と、組合員の回収の運動が結びつけられれば、安定した回収のしくみができる可能性が開けます。

また、回収のコストの問題があります。牛乳パックは製紙会社に原料として買い入れてもらうので、一定の金額で買ってもらうわけですが、回収のコストがそれでまかなえるか、という問題です。全国の牛乳パック回収の運動もこのあたりはかなり苦労をしているところだと思えます。しかし赤字ならばやらないというわけではなく、

- ・「生産から廃棄まで」の全ての循環を視野に入れ、商品のパッケージの使用後のことまで責任を持つ、ということを基本的な立場とする。

消費者運動として一定の規模を持つ生協として、社会的役割を果たす。

ということも決意をしたわけです。

こういったなかで牛乳パック回収の運動は急速に広がり、お店の組合員委員会の三分の一で取り組まれるようになりました。

五——電気自動車の研究

この「社会的役割を果たす」ということでは、コープが昨年から取り組んでいることに「共同購入の配送のトラックを電気自動車に変える研究」ということがあります。NOxによる大気汚染が、特に都市部で急速に進んでおり、その中で自動車の排気ガスによる汚染が大きいということが、環境白書などでも指摘されていますが、特に、生協の共同購入のトラックは、住宅地の中に入りこんで行くわけで、「安全な食品を運んで来て、排気ガスと騒音をまき散らしていく」という皮肉なことになっているわけです。そこで、コープがながわ・コープしずおかの百七十三台のトラックを電気自動車に切り換えられたら、と考えたわけです。そして同じような住宅地を配送している他の生協にも呼びかけて、共同の研究開発の組織を作り、今年の秋には試作第一号車ができるという予定になっています。

しかし「オイルショック」の熱がさめ、原油が値下がりしている中、自動車メーカーの電気自動車への開発意欲はあまり高くなかったようです。また世界中でも二トントラックの電気自動車というものは走っていないわけで、実用化されるかどうかはまだわからず、巨額の（コープにとっては）開発費をドブに捨てることにな

るかもしれないわけです。しかしこの研究の取り組みはかなりのマスコミに取り上げられて注目を集めました。私たちは「社会的役割を果たす」といっても、全体の社会・経済システムの中では微々たる力しか持っていないわけですが、こういう行動が一石を投じ、世論の流れを変え、力になれば、と思います。そして私たちコープにできること、メーカーがやるべきこと、行政がやるべきこと、ひとりひとりの市民がやるべきことを明確にしながら、「エコロジカルなくらし」の創造と「エコロジカルな社会・経

済のしくみ”づくり”をめざして、チャレンジ精神を大切にしながら一歩一歩前進していきたいと思えます。

生活協同組合連合会ユーコープ事業連合
エコロジー事務局

図4-1 エコロジー・プログラムの基本的な考え方

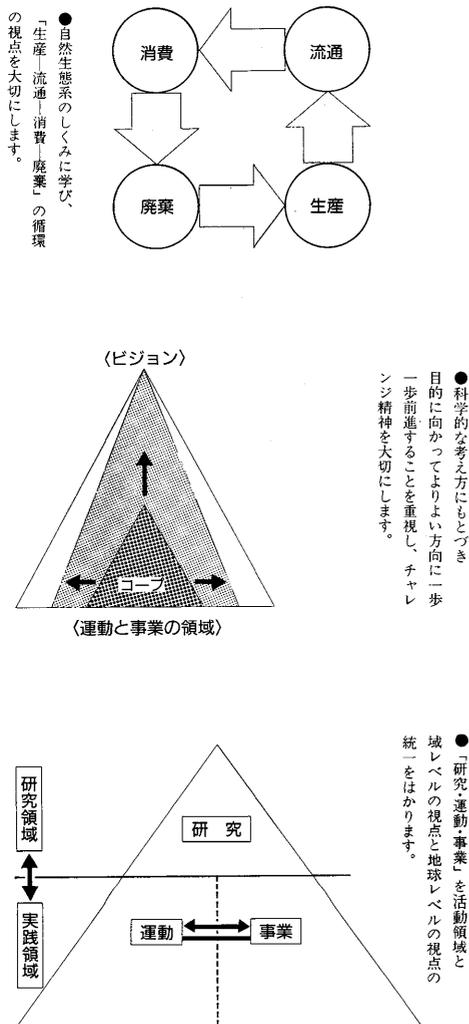


図4-2 エコロジープログラム 運動と事業のプログラム

地球レベル

- * 地球レベルの環境問題に関心を払い国際連帯をはかる。

地域レベル

- * 「エコロジカル」な行政への転換をはたらきかける。
- * 他団体とのネットワークをすすめる。
- * 「エコロジー」グループをつくって活動する。

一人一人ができること

- * 私たちにできる「エコロジカルな暮らし方・取り組み」を考える。
- * 身近な自然に親しみ、地域の自然環境を保全する。
- * 「リサイクル」に協力する。
- * 「エコロジカルな暮らし方」について、家族で話し合う。
- * 使い捨ての暮らしを見直し、できるだけムダをなくし、モノを大切に使う。
- * 「エコロジカルな商品」を見つけ、使う。

**私たちのとりくむこと
こんな暮らし方できるかな?**

私たちの暮らしを見直し、「エコロジカルな暮らし」に切り替えるための運動をすすめます。「組合員一人一人ができること」や「地域でみんな考えること」から活動をスタートさせましょう。

商品

エコロジカルな商品の供給でエコロジカルな暮らしを支える。

(1) コープ商品はエコロジカルな商品にする。

(2) コープが扱う商品はどれも事前に環境チェックされている。

(3) グリーンなモデル農場・漁場・牧場と提携されている。

店舗

環境保全に配慮した店舗・工場・車両等を実現する。

(1) 緑と自然を取り入れ、自然エネルギーが最大限に活用されたエコロジカルな店舗にする。

(2) 省エネ型で、ゴミや廃棄物が最小限に押さえられたエコロジカルな工場にする。

(3) 共同購入の配送車はすべて電気自動車にする。他の配送車は最良のエンジンと燃料を使用する。

(4) 本部・行政区事務所など、他の施設はエコロジカルな施設にする。

事業と運営

事業運営を革新し社会的な貢献度を高める。

(1) 資源のリサイクルシステムが完成されている。

(2) 情報とコミュニケーションが革新される。

(3) 環境のために利益が還元される。

職員

社会に誇れる「エコロジカルな職員」をめざす。

(1) 自らエコロジカルな暮らしを推進している。

(2) エコロジカルな観点で仕事に取り組んでいる。

**「コープの事業」プログラム
21世紀の目標**